

会長立候補者の氏名、所属、略歴及び所信

フリガナ 氏 名	かしま しげる 鹿島 茂
所 属	中央大学理工学部、中央大学大学院公共政策研究科
略 歴	<p>1948 年生まれ。1976 年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了(工学博士)。</p> <p>東京工業大学工学部助手、東京大学生産技術研究所講師、助教授を経て 1981 年中央大学理工学部助教授、教授、2005 年より公共政策研究科併任。</p> <p>交通計画の作成、交通手段の技術開発等の国、地方公共団体に委員会参加。現在中央環境審議会臨時委員。</p> <p>著書に「車依存社会(実教出版)」「環境政策の便益(中央大学出版部)」「地球環境世紀の自動車税制(劉草書房)」など。論文多数。</p>
所 信	<p>私は国土計画や交通計画を専門としてきましたが、神奈川県では環境審査会に、千葉県では環境会議技術検討委員会に、環境省では環境アセスメントの基本的事項検討委員会に参加する機会を得ました。こうした機会に環境アセスメントを専門とする方々と知り合うことが出来、環境アセスメント学会の設立にも参加し、学会では設立時より学術委員会委員長を、そして一昨年からは会長を務め、環境アセスメントの理論面、技術面の向上の一端を担ってまいりました。</p> <p>今回、再度会長候補者として多くの方から推薦を頂き、大変光栄と感じております。私は、前回の会長立候補の所信で、いま学会は次の大きな飛躍のための力を蓄える時期に差し掛かっているのではないかと思いますと述べました。</p> <p>そしてこの 2 年間に全国大会時のワークショップの開催、若手研究者の議論の場作り、関西での支部設立、学生会員増加のための会費の見直しなどを多くの会員の協力を得て進めてまいりました。今後こうした学会活動の充実を継続して一層活発なものにし、会員全ての方々に環境アセスメント学会で活動するのだという意識を更に持って頂けるようにしていきたいと考えています。</p> <p>更に、残念ながら現在はまだ学会に参加して頂けていない多くの分野の環境アセスメントに関連する方々が大勢いらっしゃいます。こうした方々にも学会に参加して頂けるよう、これまでの学会の成果を積極的に社会に発信していくことや、これまではあまり取り組んでこなかった研究テーマにも取り組むなどの工夫を試みたいと考えています。</p> <p>これまで多くの会員の方によって蓄積されてきた環境アセスメント学会の財産を出発点とし、環境アセスメントに関連する多くの分野の研究者、実務に携わるできるだけ多くの方々がこの学会に参加され、自由に意見を交換し、それぞれの専門分野だけでは生み出す事が難しい成果を生み出し、その成果を社会に積極的に発信していけるよう、学会の一層の充実と発展を目指して努力していきたいと考えております。</p> <p>宜しくお願い致します。</p>